



Sun A. Kaken

第116期(2025年3月期)  
中間 決算説明会

株式会社 サンエー化研

2024年12月4日

# 目次

## 1. 第116期(2025年3月期)中間決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

## 2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

## 3. 第116期(2025年3月期)業績予想と今後の施策

- 通期業績予想
- セグメント別業績予想、今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

## 4. 参考情報

- トピックス
- 基本情報

# 目次

## 1. 第116期(2025年3月期)中間決算概要

- 連結貸借対照表  
(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

# 第116期中間決算概要: 連結貸借対照表(資産の部)

(単位:百万円)

科 目	2024年3月期末 (第115期末)	2025年3月期 (第116期 上期末)	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	22,950	22,260	▲689	▲3.0%
現金預金	7,317	5,651	▲1,665	▲22.8%
売上債権	10,579	11,461	881	8.3%
棚卸資産	4,840	4,796	▲44	▲0.9%
その他	212	350	137	64.9%
固定資産	14,489	14,806	316	2.2%
有形固定資産	6,723	7,005	282	4.2%
無形固定資産	87	82	▲5	▲5.7%
投資その他の資産	7,678	7,718	39	0.5%
資産合計	37,440	37,067	▲373	▲1.0%

# 第116期中間決算概要：連結貸借対照表（負債・純資産の部）

（単位：百万円）

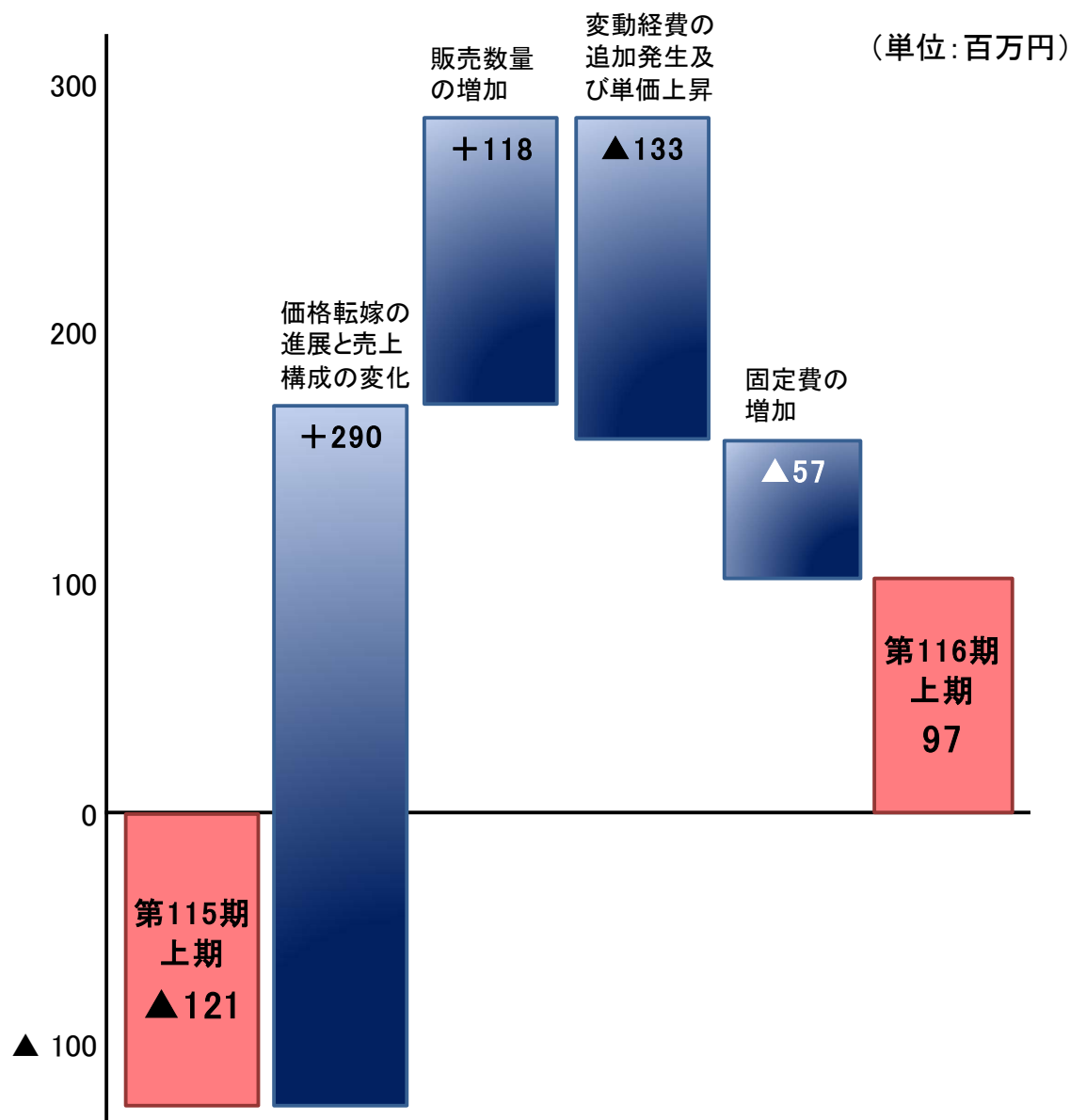
科 目	2024年3月期末 (第115期末)	2025年3月期 (第116期 上期末)	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	12,696	12,642	▲53	▲0.4%
仕入債務	6,919	6,576	▲342	▲5.0%
短期借入金	3,690	3,670	▲20	▲0.5%
その他	2,086	2,395	309	14.8%
固定負債	3,142	2,834	▲307	▲9.8%
長期借入金	412	178	▲233	▲56.7%
その他	2,729	2,655	▲73	▲2.7%
負債合計	15,838	15,477	▲361	▲2.3%
純資産	21,602	21,590	▲12	▲0.1%
負債及び純資産合計	37,440	37,067	▲373	▲1.0%

# 第116期中間決算概要：連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	2024年3月期 (第115期 上期)	2025年3月期 (第116期 上期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	13,887	14,915	1,028	7.4%
売上原価	12,495	13,168	673	5.4%
売上総利益	1,391	1,747	355	25.5%
販売費及び一般管理費	1,513	1,649	136	9.0%
営業利益	▲121	97	218	—
営業外収益	165	127	▲38	▲23.0%
営業外費用	16	68	51	313.8%
経常利益	27	156	128	466.5%
特別利益	—	—	—	—
特別損失	3	33	29	913.6%
税金等調整前中間純利益	24	122	98	406.2%
税金費用他	15	15	0	▲0.7%
親会社株主に帰属する中間純利益	8	107	98	1189.7%

# 第116期中間決算概要：営業利益の要因分解



販売面においては、機能性材料セグメントを中心に収益性の高い製品の販売が好調だったことに加え、販売価格の改定が徐々にお客様に受け入れられるようになりました。また、全セグメントにおいて受注数量が回復したことも利益の押し上げに貢献し、4億8百万円の増益要因となりました。

一方、費用面においては、新規取引に伴う販売手数料の発生及び外注費や電力・燃料費の単価上昇に加え、修繕費の増加、事業譲受関連費用及びシステム関連費用の発生等による固定費増加が、1億90百万円の減益要因となりました。

これらの諸要因により、連結営業利益は対前年同期比で2億18百万円増額となり、97百万円の営業利益を確保。黒字化を果たすことができました。

# 目次

## 2. 各セグメントの概況

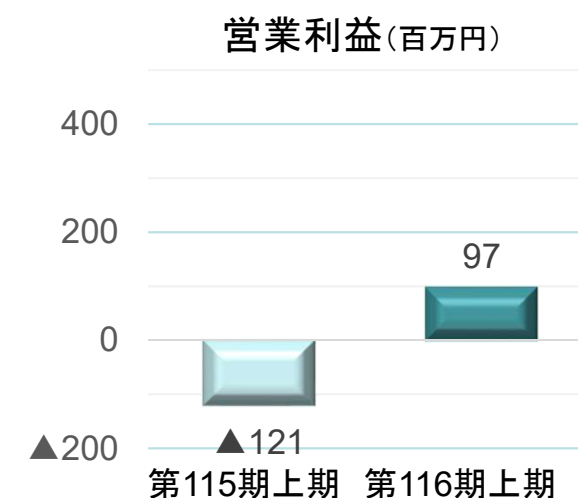
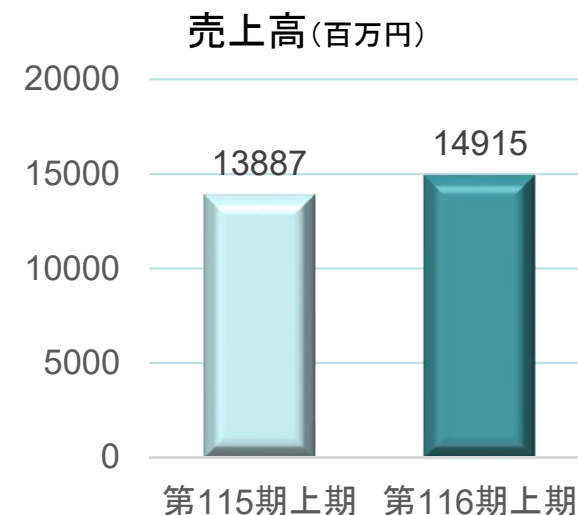
- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況  
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)



# 各セグメントの概況: セグメント別業績内訳

(単位: 百万円)

科目／ セグメント	2024年3月期 (第115期) 上期	2025年3月期 (第116期) 上期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	13,887	14,915	1,028	7.4%
軽包装材料	6,194	6,521	326	5.3%
産業資材	4,778	5,041	263	5.5%
機能性材料	2,724	3,115	391	14.4%
その他	189	237	47	25.1%
営業利益	▲121	97	218	—
軽包装材料	157	133	▲24	▲15.5%
産業資材	▲172	▲99	72	—
機能性材料	▲116	59	175	—
その他	9	4	▲5	▲54.8%



# 各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (軽包装材料)

## 軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



### 主要顧客

- 食品製造業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

### 生産拠点

静岡工場



奈良工場



東邦樹脂工業



# 各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (軽包装材料)

## 食品用包材

上期売上高  
3,346百万円



「レンジDo!」、「ポロソ」、清涼飲料用パウチなどが安定した売上を支える。

### 市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい
- SDGsを意識したニーズ高まる

### 収益性・成長性

- フードロス、調理時に発生するエネルギーの削減に繋がることから、冷凍やレトルト食品需要増。レンジDo!ニーズ拡大

## 医薬品・医療用包材

上期売上高  
1,081百万円



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い。

### 市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 市場は拡大傾向

### 収益性・成長性

- バイオマスPTPシート「Medi Green」に期待
- 高齢化の進行で医療分野は成長期待

## 日用品等の包材

上期売上高  
2,093百万円



多様な製品展開で受注変動リスクに対応。独自製品の開発・拡販に注力。

### 市場環境

- 環境対応包材の引き合い堅調
- プラボトルからパウチ化により、使用プラ削減とゴミ減容化進む

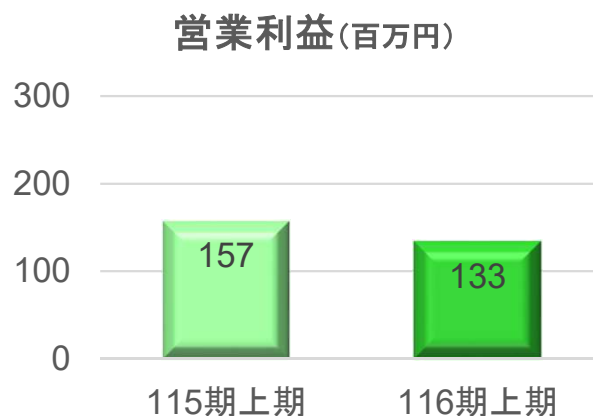
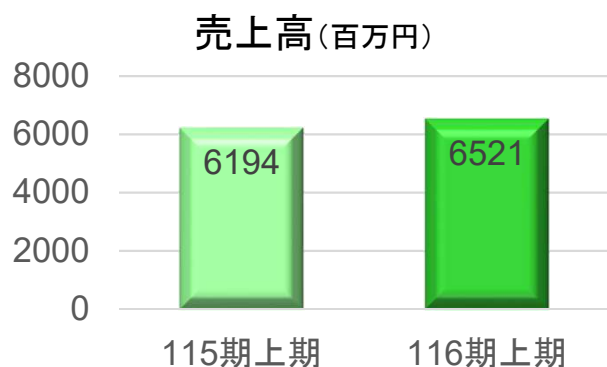
### 収益性・成長性

- 基材に紙を使用した包材を順次上市
- 耐内容物包材は需要増加が見込める
- モノマテ化など環境対応製品開発中

## 各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (軽包装材料)

### 軽包装材料

- 売上高 : 6,521 百万円 (前年同期比 5.3 % 増)
- 営業利益 : 133 百万円 (前年同期比 24百万円 減)

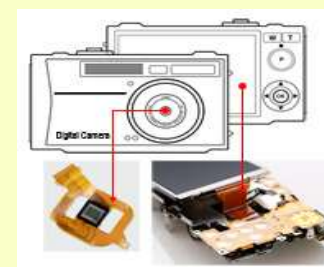


- 増収減益
- 出荷数量増加
- 今夏は昨夏に続き記録的な猛暑となり、清涼飲料用パウチの出荷が好調を維持。
- 電子レンジ対応食品包材「レンジD。!」の販売が好調。
- 医薬品・医療用包材は、売上横這い。
- 日用品等においては、エア緩衝材や耐内容物包材「プラピカ」の販売が順調。
- 新製袋ライン稼働調整ロス発生等により、対前年同期比減益。

# 各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (産業資材)

## 産業資材セグメント

### 粘着テープ基材及び各種剥離紙の製造・販売



### 主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

### 生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



東邦樹脂工業



シノムラ化学工業



# 各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (産業資材)

## 紙・布へのラミネート製品

上期売上高 2,050百万円



主に粘着テープ用基材をテープメーカーに販売。

### 市場規模 (推定)

- 重包装袋 : 約900百万m<sup>2</sup>/年
- 紙テープ用 : 約420百万m<sup>2</sup>/年
- 布テープ用 : 約200百万m<sup>2</sup>/年

### 市場環境

- 海外製布テープ流入により減少
- 海外品OPPテープとも一部競合

### 収益性・成長性

- 環境対応によるテープ使用量減少
- 海外製テープ流入により、顧客である国内テープメーカーの事業への影響懸念
- シノムラ化学工業子会社化によりシェア拡大し、競争優位性向上
- 原材料値上がりによる収益への影響大

## 剥離紙

上期売上高 2,991百万円



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる。

### 市場規模 (推定)

- 約2,700百万m<sup>2</sup>/年

### 市場環境

- 国内の需要減は底打ちも、消費の戻りが鈍い
- 円安で海外向けテープ需要増

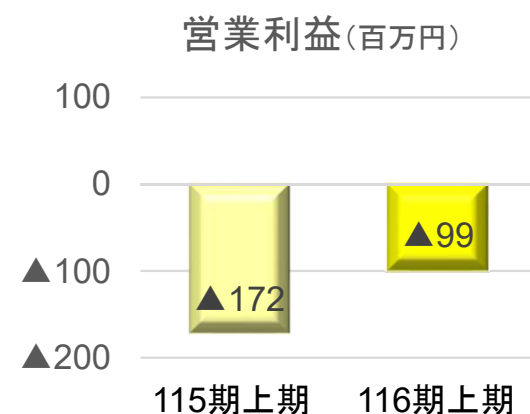
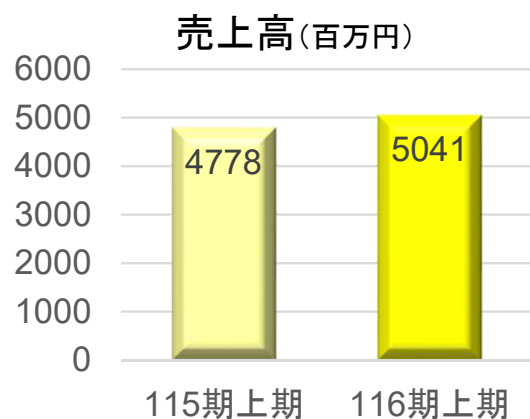
### 収益性・成長性

- 一般用途は競争激化
- 白物家電、自動車関連用途伸長
- メディカル用途の拡充を目指す
- FPC用工程紙は、厳しい環境下ながら需要は安定

## 各セグメントの概況: 事業の内容及び概況(産業資材)

### 産業資材

- 売上高 : 5,041 百万円 (前年同期比 5.5% 増)
- 営業利益 : ▲99 百万円 (前年同期比 72百万円 増)



- 増収増益(赤字縮小)
- 出荷数量増加
- 紙・布へのラミネート製品については、海外製テープとの市場競争が激しくなっているが、足元は回復の兆し。
- 剥離紙については、自動車関連部材向けが回復。海外家電メーカー向け両面テープ需要も堅調。
- 原材料価格や電力、燃料費上昇分の価格転嫁が進んでいるが、十分とは言えず顧客と交渉継続。

# 各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (機能性材料)

## 機能性材料セグメント

### 機能性プラスチックフィルム(各種表面保護フィルム等)の製造・販売



#### 主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

#### 生産拠点

##### 掛川工場



##### 袋井工場





# 各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (機能性材料)

## オレフィン系粘着加工品

売上高 1,423百万円

サニテクト  
(粘着塗工タイプ)



PAC  
(2層押し出しタイプ)



最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる。

### 市場規模 (推定)

### 収益性・成長性

#### 粘着塗工タイプ

- 約100百万m<sup>2</sup>/年  
(光学用途)

#### 粘着塗工タイプ

- 一般用途は国内市場縮小と消費回復の遅れから需要は横ばい
- レーザークット用など非光学用途の需要拡大中

#### 2層押し出しタイプ

- 約700百万m<sup>2</sup>/年  
(光学用途)

#### 2層押し出しタイプ

- 小ロットや細かな製品サイズへの対応力で競合他社と差別化
- 環境配慮型製品として強粘着タイプに期待

## その他の粘着加工品

売上高 1,691百万円

SAT、  
サニテクトNS  
その他  
(PET基材タイプ他)



PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される。

### 市場規模 (推定)

### 収益性・成長性

#### 精密塗工タイプ

- 約600百万m<sup>2</sup>/年  
(光学用途)

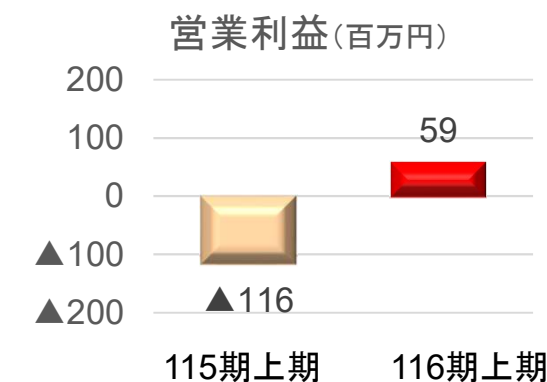
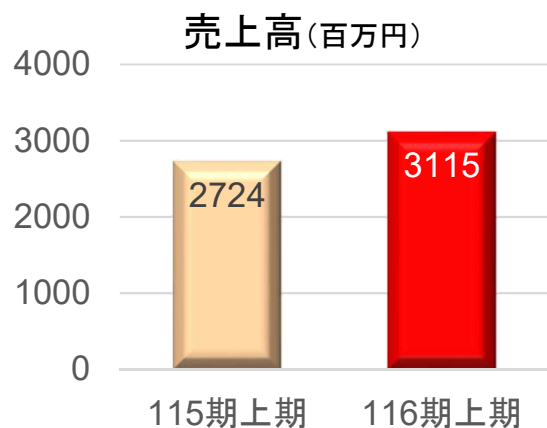
- 光学関連用途は、在庫消化が進み受注回復
- スマートフォン関連はフォルダブルタイプが増え、それに伴い部材用保護の需要も増加傾向
- 車載用、映像機器部材用途の新規採用進む

## 各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (機能性材料)

### 機能性材料

- 売上高 : 3,115 百万円 (前年同期比 14.4 % 増)
- 営業利益 : 59 百万円 (前年同期比 175百万円 増)

- 増収増益
- 出荷数量増加
- 液晶パネルメーカー、部材メーカーの在庫調整が進み、光学用表面保護フィルムの受注は、前期後半からの好調を維持。
- 原材料価格や電力・燃料費高騰に対する製品への価格転嫁も進み、利益減少に歯止め。



# 目次

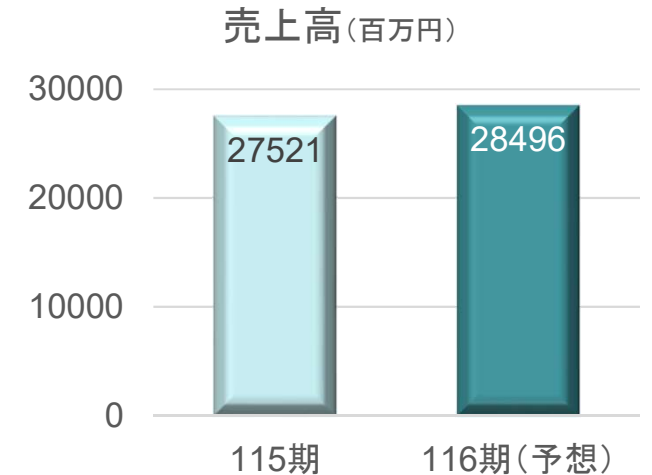
## 3. 第116期(2025年3月期)業績予想と今後の施策

- 通期業績予想
- セグメント別業績予想、今後の施策  
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

# 第116期業績予想と今後の施策：通期業績予想

(単位：百万円)

科目／ セグメント	2024年3月期 (第115期)	2025年3月期 (第116期) (予想)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	27,521	28,496	974	3.5%
軽包装材料	11,880	12,219	338	2.8%
産業資材	9,738	10,298	559	5.7%
機能性材料	5,557	5,692	134	2.4%
その他	344	287	▲57	▲16.7%
営業利益	▲195	180	375	—
経常利益	35	325	289	813.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	348	228	▲120	▲34.5%



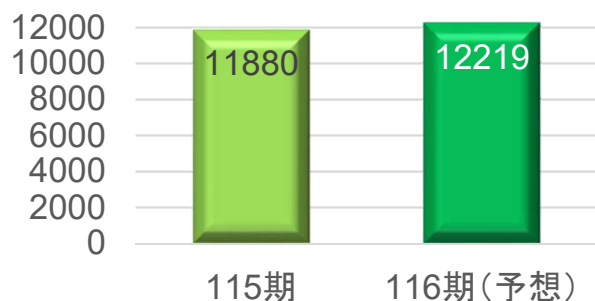
# 第116期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（軽包装材料）

## 軽包装材料

### 【第116期業績予想】

- 売上高： 12,219 百万円（前期比 2.8% 増）
- 営業利益： 87 百万円（前期比 89百万円 減）

売上高(百万円)



営業利益(百万円)

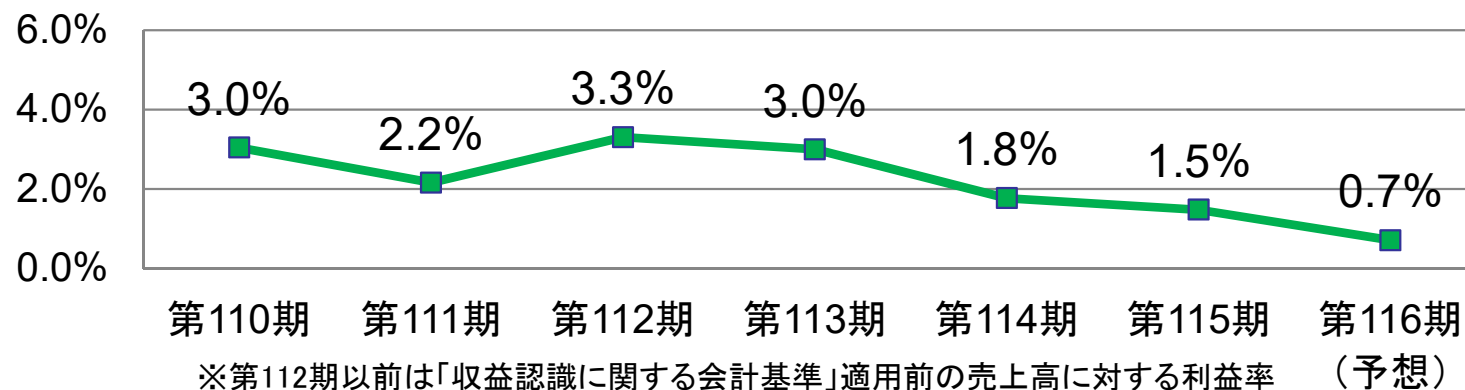


- 電子レンジ対応食品包材は、巣ごもり需要が収束するも利便性が評価され、新規採用増加。
- 使用済容器の減容化やプラスチック使用量削減の流れを受け、ボトルタイプの容器からパウチへの切替需要を取り込む。
- 奈良工場の新製袋ラインの償却費、設備移設費の発生等により大幅な減益予想。

## 第116期業績予想と今後の施策：今後の施策（軽包装材料）

### 軽包装材料

営業利益率の推移



- レンジ対応食品包材を使用した製品が増え、消費者の認知度も上がっている。  
環境対応品など種類を増やし、業界の先駆者として更なる需要の創出を図る。
- 飲料用や液体洗剤詰替え用のパウチ、耐内容物包材「プラピカ」の拡販を進める。
- パウチ用新製袋ラインの、早期フル生産を目指す。
- 奈良工場の機能性設備移設後、製袋ラインを増設予定。セグメントや事業所の垣根を超えた生産の合理化を行い、筋肉質な経営体制を目指す。

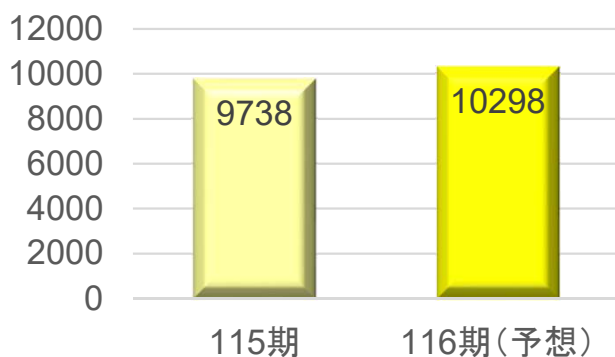
# 第116期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（産業資材）

## 産業資材

### 【第116期業績予想】

- 売上高：10,298 百万円（前期比 5.7% 増）
- 営業利益：▲59 百万円（前期比 174 百万円 増）

売上高(百万円)



営業利益(百万円)

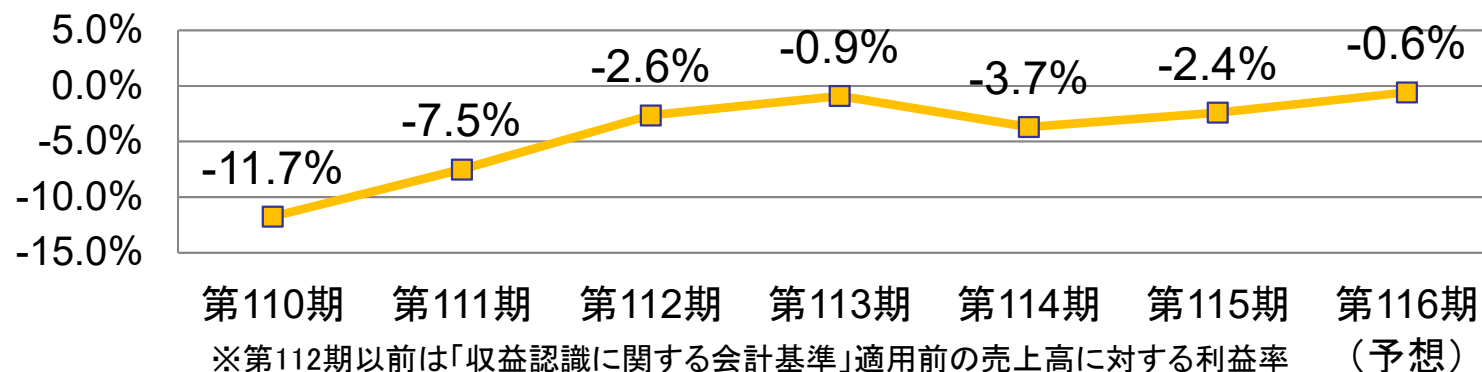


- 紙・布へのラミネート製品については、消費回復の戻りが予想よりもやや力強い。
- 剥離紙については、輸出用両面テープの好調が続くと見込まれ、売上は対前期比プラス。
- 原材料コストだけでなく、ユーティリティコスト上昇分についても価格転嫁を進め、収益性は改善するも、受注数量の回復遅延と環境対策コスト増加により、赤字縮小にとどまる。

## 第116期業績予想と今後の施策：今後の施策（産業資材）

### 産業資材

#### 営業利益率の推移



- シノムラ化学工業株式会社との間では、営業統合に続いて生産、管理などの機能統合を進め、調達体制の最適化、コスト削減などでシナジー効果創出を図る。
- 稼働率、加工スピードを上げ、生産体制を見直してロスを削減するなどし、利益を確保して黒字化を目指す。
- 収益性の高いラミネート布を中心とした新規拡販で、数量と利益を確保する。
- 利益に貢献しない不採算案件をなくすため、値上げや生産銘柄の見直しを行うとともに、設備の統廃合を積極的に進める。

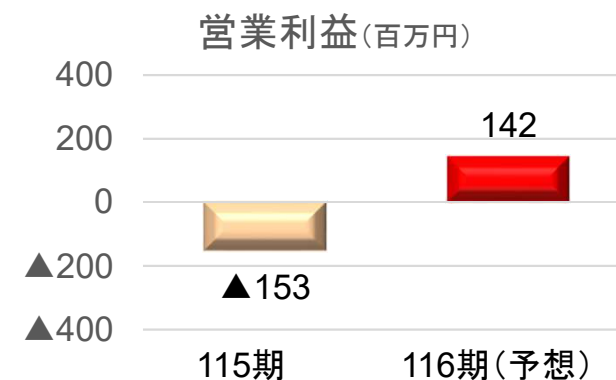


# 第116期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（機能性材料）

## 機能性材料

### 【第116期業績予想】

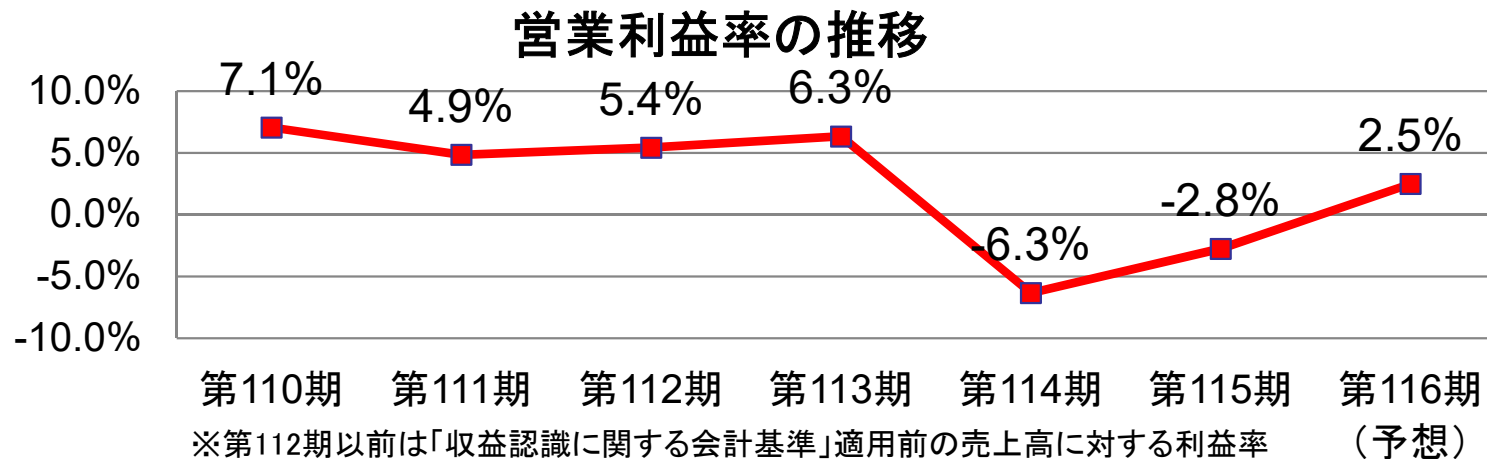
- 売上高： 5,692 百万円 （前期比 2.4 % 増）
- 営業利益： 142 百万円 （前期比 295百万円 増）



- レゾナック社より表面保護フィルム事業を譲受
- スマートフォン市場は、途上国市場向けが好調であり、各部材用の保護フィルム需要が戻りつつある。フォルダブルタイプの新機種が増えつつあり、市場の成長が見込まれる。
- 非光学用途では、ステンレスをはじめとした金属板のレーザーカット用や塩ビ代替タイプの需要増加に期待。

## 第116期業績予想と今後の施策：今後の施策（機能性材料）

### 機能性材料



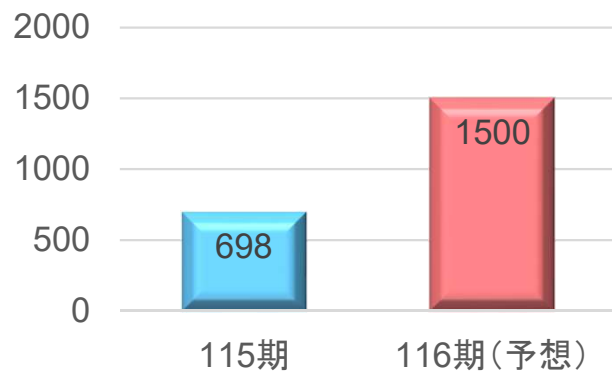
- レゾナック社より「半導体リードフレームめっき」や「ステンレスの深絞り」といった特殊用途を含む表面保護フィルム事業を譲り受けたことにより、当社の機能性材料と相乗効果を発揮し、更なる成長を目指す。
- 生産設備の統廃合と人員の再配置を計画的に進め、リソースの最適化とコスト削減に注力する。
- 車載及び映像機器部材用保護フィルムの開発、拡販に注力し、更なるシェアアップを目指すとともに、製品部材など保護フィルムに限らない、成長分野向け機能性フィルムの量産化を急ぐ。
- 光学関連分野における他企業とのコラボレーションの検討、推進。

# 第116期業績予想と今後の施策：設備投資及び研究開発費

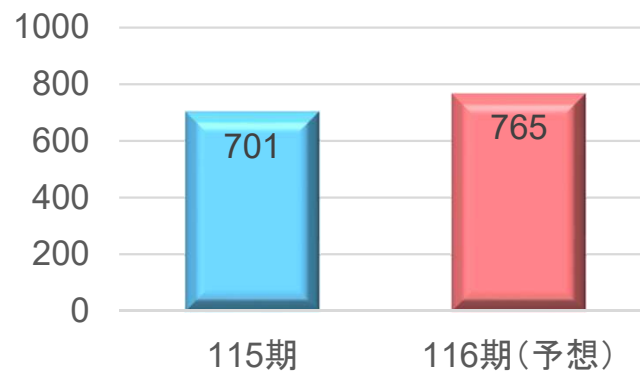
(単位：百万円)

科目	2024年3月期 (第115期)	2025年3月期 (第116期) (予定)	備考
設備投資額	698	1,500	製袋機増設、設備改造、設備更新、サーマルリサイクル設備導入
減価償却費	701	765	上記設備投資により増加
研究開発費	413	400	従来水準を維持

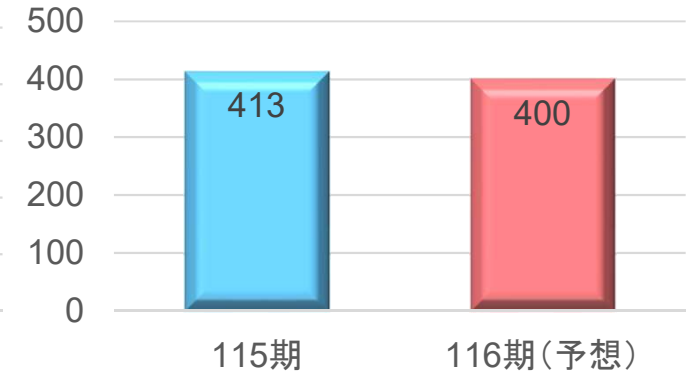
設備投資額(百万円)



減価償却費(百万円)



研究開発費(百万円)



# 目次

## 4. 参考情報

- トピックス
- 基本情報

## 参考情報：トピックス① (表面保護用フィルム事業の譲受)

株式会社レゾナックと事業譲渡契約を締結し、事業を譲り受けることといたしました。

### 1) 対象事業

表面保護用フィルム(半導体リードフレームめっき保護用途他)

### 2) 譲渡対象

契約、特許権、技術ノウハウ、一部設備

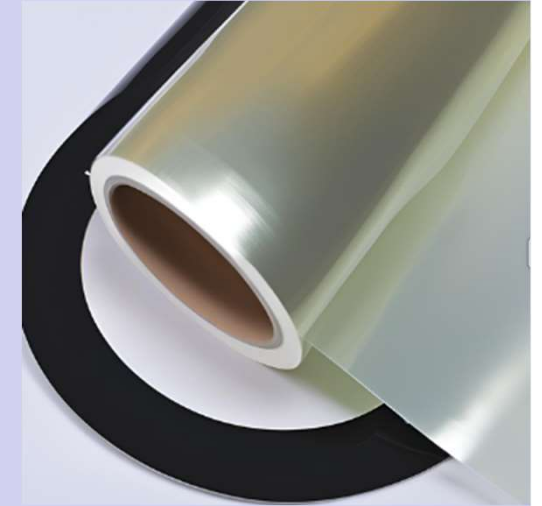
(従業員は含まない)

### 3) 譲渡契約締結日

2024年8月7日

### 4) クロージング日

2024年11月15日

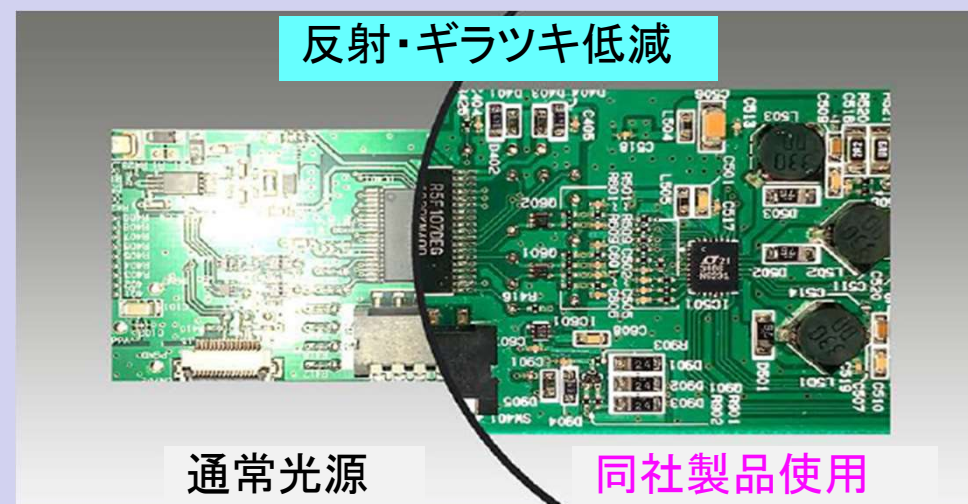
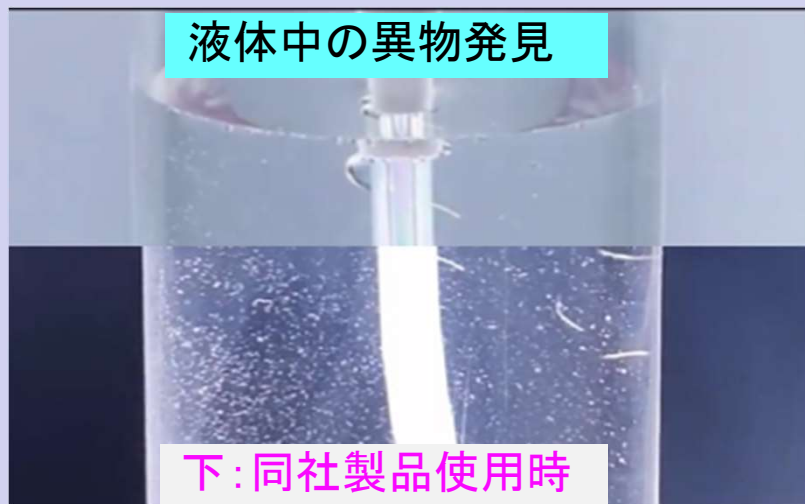


半導体リードフレーム等のめっき用途、ステンレスシンク深絞り用途等の表面保護フィルムは、レゾナック社が市場の多くを占めております。これらを含む事業を譲り受けることで、今まで弊社が参入していなかった新たな業界への販路拡大と、技術ノウハウの取得が可能となります。ニッチな市場向けの特種表面保護フィルム技術ノウハウの他、新たな顧客を取得することで、既存分野を含む製品開発力の向上が期待でき、今後の成長に繋がるものと考えております。

## 参考情報：トピックス② (シンクロア社製品の独占販売権取得)

当社は高度な照明技術を持つシンクロア社と独占販売契約を締結し、同社の検査照明装置を当社が独占的に販売することとなりました。

本製品は、シンクロア社が医療業界で培った技術を活用し、日々重要性が増す検査精度の向上と作業効率の改善を実現します。



当社の、食品や光学部材といった厳しい検査を求められる主要なお客様にご紹介したところ、性能面・操作性ともに高い評価をいただいております。

# 参考情報: 基本情報

2024年9月30日現在

商 号  
証 券 コ ー ド  
設 立 者  
代 表 者  
事 業 所

株式会社 サンエー化研

4234 (東証 スタンダード)

1942年9月 (昭和17年9月)

代表取締役社長 櫻田 武志

本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4

営 業 拠 点 : 東京、大阪、名古屋

【海外】台湾、中国上海 (連結子会社 灿櫻(上海)商貿)

生 産 拠 点 : 静岡、袋井 (2カ所 内1カ所は連結子会社 シノムラ化学工業(株) 本社工場)、掛川(2カ所)、天理、野木 (連結子会社 東邦樹脂工業(株) 本社工場)

研究開発拠点 : 掛川

21億76百万円

高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売

668名

3月31日

資 本 金  
事 業 内 容  
連 結 従 業 員 数  
決 算 期

業績予想は、本資料の発表日現在(2024年12月4日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問い合わせ先

---

株式会社 **サンエー化研**  
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719

E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp